

株式会社 ヤマトウ

システム導入で製品の品質が安定し、生産性が向上

事業内容 エンプラ素材で、多分野の加工品提供

「ヤマトウ」は昭和62年に創業した合成樹脂の切削加工に強みを持つエンジニアリングプラスチック（エンプラ）製造会社で、主要取引先は食品、半導体、アミューズメント、機械の各業界と多岐にわたる。ソフトクリーム製造機からジェットコースター、航空機のオイルフィルター部品まで幅広い分野で、「ヤマトウ」のエンプラ部品は活躍している。取引先や仲間の中小企業からの紹介などで仕事につながることも多く、現在の売り上げは約5億円で取引先は200社を超える。

「技術向上を喜び、未来創造の一翼を担い、ものづくりを幸せに思う人作り」をモットーに事業に取り組んでいるほか、^{とうま} 當麻吉克社長は社員に「自社で経験を積んで、独り立ちしてほしい」という考えをいっている。そのために社員への教育・研修にも熱心で、大手メーカーが実施する研修に若手社員を積極的に派遣し、同様に画像寸法測定器や3Dプリンターなど設備への投資にも毎年取り組んでいる。

補助事業 「工場見える化」のために生産管理システム導入

工場集中管理システムを導入し、短納期化や品質向上を図る。同社は大阪府門真市内に3工場を持ち、約40台の工作機械を有する。それぞれの現場には責任者がおり、工場内の生産管理を担っている。従来は1ヵ所に生産が集中すると納期に遅れが生じるため、各責任者が当該の工場に行き状況を確認し、自身の工場の生産に余力があれば、その工場に対応できない仕事を受け持って加工していた。

しかし、本社から車で5分程度かかる場所もあり、1日に何回も工場と本社を往復して状況を確認するのは非効率だった。また、各工場内の全機械を責任者が一度に確認できないため、機械のトラブルがあっても気づけず、早期に対応できなかった。そこでシステムを導入して「工場見える化」を進める。責任者は機械の状況をモニターで確認でき、各工場に行く必要がなくなるほか、モニターを通じて機械のトラブルを素早く見つけ、不良品の発生防止につながる。

株式会社 ヤマトウ

代表取締役 當麻（とうま）吉克

〒571-0038 大阪府門真市柳田町30-1

TEL. 072-882-9331

FAX. 072-882-9325

資本金／10,000千円

従業員／35名

短納期
小ロット
OK

量産
OK

試作
OK

豊富な機械と工場管理システムで顧客の求めるものづくりへ

代表取締役 ^{とうま} 當麻 吉克

エンジニアリングプラスチックの加工を手がけています。約40台の工作機械を工場管理システムで一元管理して、工場内の無駄を減らすことができました。これからも顧客のニーズに応えられるものづくりを目指します。



機械の稼働状況が画面で把握できる



加工したエンジニアプラスチック製品



工場内に並ぶ機械

具体的成果 システム導入で短納期、機械トラブルにも迅速に対応

工場の生産体制確立のため「工場集中管理システム」を導入し、工場内の各機械をシステムのネットワークでつないだ。その結果、さまざまな成果が出た。まず、各工場にある各機械の稼働状況が随時確認できるため、工場間の仕事の割り振りが以前よりスムーズになった。別の工場に加工を回すことができ、1つの工場にエンプラの生産が集中するのを事前に減らせた。これにより、製品の納期の遅れを少なくすることができ、短納期への対応が可能となった。おかげでシステム導入前に比べて取引先からの短納期への仕事が15%増加した。このシステムは各機械の稼働時間などを基に稼働率が分析できる。分析を踏まえ、作業工程を見直したことで生産性が向上した。

また、各工場の管理責任者が工場間を移動する回数は1日平均10回程度だったのが、システム導入後は約3回になり、責任者の肉体的な負担を軽減し、移動時間の削減につながった。欠陥品についてもトラブルが生じた機械をモニターで表示し、異常を早期に見つけられるようになった。これで生産工程を改善した結果、製品の品質が安定し、不良品が少なくなり製造コストが約10%も低減した。

今後の戦略 新工場建設や人材育成で売り上げ向上

「ヤマトウ」は設備投資に積極的な会社だ。リーマン・ショック時でも設備を導入し、毎年3,000万円程度の設備投資を心がけている。「機械があれば仕事がある」というのが當麻社長の考えだ。今回の工場管理システムを導入したことで短納期の受注が増え、平成27年9月期の売り上げは会社の目標だった5億円を突破した。現在、門真市内の3工場には約40台の工作機械があるものの、これから設備を設置するにはスペースの確保が難しくなってきた。

これらの課題を解決するために新工場を建設する。総投資額は約3億円で平成28年秋の完成を目指している。本社から車で5分程度の土地を取得しており、新工場は3階建てで延べ床面積は約1,300㎡になる計画だ。これは現在の3工場を合わせた面積よりも広い。新工場には長さ2m以上のエンプラを加工できる大型マシニングセンター（MC）も導入する。當麻社長は設備投資以外に、若手社員に大手メーカーの研修に参加させるなど人材育成にも力を入れている。社員が技術を学び「将来は独立して、仕事を融通し合える仲間を増やしたい」と當麻社長は話す。これらの取り組みで同社では平成38年度に売上高10億円を目指している。

取材を終えて

積極投資でも愛情あるものづくりを大切に

「ヤマトウ」は毎年、設備投資をする勢いのある会社だ。ただ、當麻社長は「機械の導入だけで良い製品はできない。作業している社員が楽しくなければ」と話す。ものづくりするうえで大切なのは、いかに愛情を持って仕事できるかということ。それを続けるためには「『ものづくり』が楽しいと思う人の集まりでありたい」という。人材育成は一筋縄にはいかないが、根気強くものづくりに携わる人を育ててほしい。

<http://www.yamatou.co.jp/>